

つくしだより



令和6年8月号

第5回東京都地方精神保健福祉

審議会の報告

都連副会長 植松 和光

7月8日(月)午後5時からオンラインによる第5回東京都地方精神保健福祉審議会が開かれ、私が委員として出席しました。この審議会は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律123号)第9条第1項に基づき、知事の附属機関として設置され、精神保健及び精神障害者の福祉に関する事項を調査審議し、知事の諮問への答申や意見具申を行う機関です。

委員は学識経験者として加藤進昌 東京大学名誉教授ほか6名、医療機関関係者として水野都立松沢病院長他6名、社会復帰関係者として羽藤メンタルケア協議会理事長他4名、区市町村代表として水口中野区保健所長の計20名で構成されています。今回の審議会では第8次東京都保健医療計画改定に基づく取り組み等について協議しました。今回は、紙面の都合上入院訪問支援事業についてのみ概要を報告します。協議事項として入院訪問支援事業推進会議について提案されました。令和4年に国の検討会議で審議されて

きたもので令和6年度からの新規事業。

〔事業目的〕

○精神科病院においては、本人の意思によらず入院が必要な場合がありなかでも、区市町村長の同意による医療保護入院者は家族等外部との面会交流が難しく、閉鎖的な環境となっている。

○外部との面会交流が実質的に遮断される状況は、本人の意思によらず入院となる者への処遇として人権擁護の観点からも望ましくない。

〔事業概要〕

○精神科病院を訪問し、入院者の生活に係る一般的な相談や必要な情報提供等を行う支援体制を構築

■訪問支援対象者…都内精神科病院入院患者のうち、区市町村長同意による医療保護入院者等であって、支援を希望する者 対象者約千名

訪問支援員の養成について

○地域的な偏りなく支援員を養成する必要がある。

○精神保健福祉に関する一定の知識があることが望ましい。

○支援員養成初年度でもあり、募集段階で、一定程度、質が保たれる人材かつ入院患者や病院職員と良好な

関係を築ける人材を研修受講対象者とすることが望ましい。

区市町村から2名程度(障害福祉サービス事業者、医療機関従事者、ピアカウンセラー等。精神障害者に対する相談経験があることを要件とする。)

訪問支援について

○訪問病院を徐々に拡大して実施予定。(病床数の多い病院から対象病院とし、徐々に拡大)

実施にあたっては、事前に都内精神科病院へ意向調査(懸念事項・プレ実施への参加意向等)を行う。

○精神科病院への事業周知…第1、2段階病院は訪問等による説明を予定。第3段階病院は説明会(オンライン)開催予定(併せて、訪問支援開始に係る通知文送付)

○区市町村への事業周知…説明会(オンライン)により事業説明(併せて、訪問支援開始に係る通知文送付)

○患者への事業周知…区市町村長同意時に区市町村職員から説明、また、入院時に病院職員から説明

以上が入院支援事業の概要です。次号で第8次東京都保健医療計画改定について報告します。



「リカバリーをめぐる対話」
 (オープンダイアログとピアサポート)

に参加して

都連副会長 本田 道子



皆さまもたぶん興味をお持ちでしょう。

オープンダイアログについてはすでにいろいろな先生方が紹介もし、さまざまな形の講演会や研修もなされております。

今回はこの研究に取り組んでおられる下平美智代氏の講演会が第一部。第二部として

「リカバリーをめぐる対話」～経験専門家の語り～となっておりますのでこちらにも魅力的なので参加してきました。

なのでこれは私が講演会に参加して感じたことや思っていること、の記述ですのでオープンダイアログそのもののご紹介ではないことをまずはご理解ください。

第一部 講演会

「オープンダイアログと意図的ピアサポートに学んだこと」

始めにオープンダイアログについての説明がありました。

○フィンランド、西ラップランド地域の精神

医療のシステム全体を示す名称でもあること。

○西ラップランドの地域精神保健システム

の中では治療ミーティングにおける

スタッフの治療姿勢「考え方・態度」も

含めた対話のあり方そのものも「オープンダイアログ」と呼ぶ、ということ。

○システムとして24時間コンタクトが可能
 なスタッフが電話対応していて、できるだけ早くに本人・関係者を含めた「治療ミーティング」を開始してゆく。

場所は病院でも自宅でも。本人の希望する場所です。そこでの対話「開かれた対話」も

「オープンダイアログ」。

◎このシステムの本人・家族・専門家との「治療ミーティング」の中で必要に応じて他の治療法・薬や心理療法が提案される、ということ。決して「ミーティング」だけの治療ではない、のです。とても安心しました。

◎この時の専門家の中には様々な職種の人がある、ということ。医師・看護師・心理療法士・そして経験専門家と呼ばれているピアサポーターも。

◎セラピストがミーティングの中で意識している会話、いわゆるダイアロジカルな対話とは私が今まで学んできたことと同じ内容で安心したことでした。

◎意図的ピアサポートの考え方

・ピアサポートは意図をもったものであり、双方が現在のストーリーから抜け出すこと

の助けになるようなやり方で意図的にコミュニケーションを行う。

そのためにはピアも「トレーニング」が必要です。このトレーニングをうけた当事者の経験に対する敬意をこめた呼び方として「**経験専門家**」

第二部 「リカバリーをめぐる対話」

経験専門家の語り

下平先生はこの「経験専門家」についての学びのために再度フィンランドへ。

そして現在は所沢市の支援もあり「経験専門家養成講座」を開催されております。

この講座を終えられた3名のいずれも男性の方からの体験談でした。

急性期の本人・家族にとって24時間以内のミーティング、どんなに心強いことでしょうか。ましてその中にピアサポーター、経験専門家がいる、としたら。

「オープンダイアログ」に新しい理解が増えたような気がします。

この企画は「小平けやきの会」が7月13日に小平福祉会館で開催しました。感謝。

立川麦の会訪問

都連理事 中住 孝典

青梅と立川はさほど遠くはないのですが初めて「立川麦の会」を訪問させていただきました。この日も危険な暑さ、会場の立川市幸学習館も初めてのため迷いながらもやっとたどり着いた時には汗だく、くらくら状態。そんな猛暑の中、20人に近い皆さん方が参加されました。始めに「立川麦の会」からの報告がなされそれぞれの方が分担しながら参加された活動や行事に対する報告を行い共有するという様子でした。いろいろ役割分担ができていた様子を見て、私が所属している「青梅ほっと・スマイル」も、見習うようにしたいと感じました。私の方からは自己紹介と病院の精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）を出発点として地域活動、家族会活動に至るまでの経過をお話しさせていただき、多くの時間は皆さん方からの質問に対するやり取りが中心となりました。親子関係の距離の取り方や当事者の今の状態をどう理解して対応したらよいのかという対応上の問題。ご本人が妄想に影響を受けやすい状態のため、それがご家族に対する暴力や被害妄想につながり、どう接したらよいのか翻弄されてしまうご様子。医療や支援機関とのつながりはあるが立場性による意見の相違などもあり、その共有や連携に関する問題などなど。今抱えている問題や心配に対し活発な

意見交換や感想が述べられる場になっていくように思います。地域で相談支援事業を始めて数年が経ちますが、まだまだご家族が当事者を抱え込まざるを得ない状況があります。地域の相談支援がマンツーマンに近い形、適切な相談支援体制の充実がもつと必要であり、ご家族の負担軽減やご家族と当事者の適切な距離や関係の再構築にもつながると私は思っています。いずれにしても言えることは「孤立せず」「抱え込まず」「つながることを大事にする」です。家族会もそのためにあります。知らず知らずのうちには元氣や勇気をもらい障害をもつ当事者理解や対応を深めます。人は人との関係の中で生かされていきます。是非それを信じてご自分たちの暮らしを大事にしてこれからもつながりあっていきましょう。最後に私のまとまらない話を聞いてもらった「立川麦の会」の皆様には深く感謝いたします。

家族会訪問

墨田区精神障害者家族会「すみだ会」

都連理事 安藤 万寿代

梅雨明けの7月20日(土)、スカイツリーのお膝元・「すみだ会」を訪問致しました。この家族会の定例会は、墨田作業所で隔月に第4土曜午後1時30分～3時30分まで開催されます。(作業所の空き日を利用)当日は向島保健センターより保健師さん

(二人)が家族会の様子を知りたいとの事で、ご出席されていました。

先ず、会長の三浦様のご挨拶で始まり、参加者全員8名の自己紹介をされました。私から東京つくし会の現状報告と今後の課題・我が家の様子をお話し致しました。

参加の方から「グループホームへ入所したいがどうしたらよいか」「障害年金を頂くにはどうしたらよいか」「娘にリハビリをさせたいがどうしたらよいか」のご質問がありました。「グループホーム」については、ご本人様とご一緒に、又は、ご本人様のご了解を得て、ご家族様が見学されてはとお話し致しました。利用するホームは墨田区に拘らず、多くのホームを見学致す事をお勧めしました。「障害年金」については東京つくし会の年金相談担当者へ、直接、お電話をお掛け下さいとお話し致しました。「当事者の娘にリハビリを」については、保健師さんから主治医の先生からリハビリの必要性を話して頂くと良いのではと話されました。

「すみだ会」は、1970年(昭和45年)に創立されて、今年で54年目になる長い家族会でした。会長の三浦様は様々な感謝状を頂き、現在も生き生きとして会のために活躍で、「みんなねっと北海道大会」にも参加されるとの事です。ありがとうございました。



☆ 寄付のお知らせ ☆

古怒田 幸子様 10000円
 前山 栄江様 10000円

☆ 賛助会費 ☆ (敬称略)

徳井記念五反田クリニック 5000円
 小島 頼子 2000円
 松野 浩子 2000円
 石井メンタルクリニック 5000円
 柳沢クリニック 5000円
 くるみクリニック 5000円
 大倉診療所 5000円
 新小岩南口クリニック 5000円
 代々木の森診療所 5000円
 吉田 晴哉 5000円
 宮本 里詩子 2000円
 NPO法人クララ 5000円
 松原 のり子 4000円
 勝又 祐紀 2000円
 打浪 誉也 2000円
 土屋 米子 2000円
 ありがとうございます。

☆ 講演会のお知らせ ☆

○回復力を高める家族の接し方
 日時 9月6日(金)午後1時半〜4時半
 講師 高森 信子先生
 会場 蓮根ロータスホール 申込不要
 入場無料 80名(先着順)
 主催 はすね会 ☎090-1734-6775

○福祉避難所について

日時 9月7日(土)午後2時〜4時半
 講師 文京区福祉部福祉政策課
 社会福祉法人武蔵野会リアン文京

会場 文京シビックセンター3階会議室
 主催 文京区家族会 要予約 先着順
 問合せ先 文京区障害者基幹相談支援センター ☎03(5940)2903

○障害のある子の「親なきあと」

〜「親あるあいだ」の準備
 日時 9月14日(土)午後2時〜4時半
 講師 渡部 伸先生
 会場 武蔵野市役所西棟412会議室
 主催 武蔵野市第二金曜会 申込不要
 問合せ先 ☎090-1462-2890 北山

○精神科の疾患があっても入れる保険

日時 9月21日(土)午後1時〜2時
 講師 本橋徹大氏 (Jリスクマネージメント)

○医療の立場から、親なき後、精神に障害のある方が、地域で安心して暮らすことができるために、今から備えておくこと

日時 9月21日(土)午後2時半〜4時
 講師 花田 照久氏 (周愛巣鴨クリニック院長)

会場 ボンサンス千寿 (周愛巣鴨クリニック)

問合せ先 ☎090-4752-4009 石川

○社会環境と精神疾患との関係

〜社会との相互作用の中での回復〜
 日時 10月12日(土)午後1時半〜4時
 講師 西田 淳志先生 (東京都医学総合研究所)

会場 小平市福祉会館小ホール 申込不要

主催 小平市けやきの会・むさしの会
 ☎042-343-4559

編集後記

今年も暑い夏です。

皆さまはお元気でしょうか。

最近の暑さで保育園のあのビニールのプール遊びさえ、できなくなってしまうようですよ。なんだか、かわいそう。

私の北海道のこどもの頃、といえば。

夏休みはほぼ毎日、近くの川で日がな一日遊び暮らしておりました。海の近くの川だったのは今から思うには大人の知恵で、子供だけで遊ぶのにはより安全だったということなのでしょう。

年嵩の中学生の従妹たちもいたのは、大人たちに言われていたのかも。

帰りには貝や小さな魚たちをバケツに持ち帰りにわとりの餌に。懐かしい思い出です。

そうしているうちに百日紅の花が咲き出し、夏休みが終わりに近づいていることを告げるのです。

立葵の花がてっぺんまで咲き出すと、いよいよ夏は終わり、宿題の山にみんな泣くことになるのです。

どこまでも どこまでも

つづく青空白い雲

あの夏の日は 宝石の箱

(本田)



つくしたよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。